

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500271		
法人名	社会福祉法人 光仁会		
事業所名	グループホームさるびあ		
所在地	周南市城ヶ丘三丁目 6番1号		
自己評価作成日	平成27年8月16日	評価結果市町受理日	平成28年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域行事に積極的に参加し、定期的に地域ボランティアの慰問(ちぎり絵、囲碁等)が行われている。夏祭りへの参加(カレー作り)、一斉清掃や資源回収への参加で地域の方々との交流が深まりつつある。食事も四季折々のメニューにより美味しく食べていただき、ほとんどの方が完食されている。月に1度は、バリエーションを変えて、手づくりケーキ(炊飯器)を利用者様と一緒に作るのが、恒例行事になっている。日中は、利用者の能力に応じて、生活リハビリとして、手伝いや手作業等を行っていただくことを日課としており、皆様の生き生きとした生活を送って頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人として自治会に加入し、自治会の集会開催時には場所を提供されている他、職員は清掃活動や資源回収に参加されたり、夏まつりのカレーづくりなどに協力しておられ、夏祭りや敬老会に参加される利用者と地域の人との楽しい交流につなげておられます。消防署の協力を得て実施される災害訓練には、地域の住民15人が参加され内8人は利用者役として避難誘導訓練を体験しておられます。運営推進会議では地域のメンバーや市担当課職員等と交え、実践を踏まえて緊急時の協力体制について検討され、市と災害時の福祉避難所としての協定を結んでおられる他、緊急時連絡網に地域の人も加入されるなど、地域との協力体制づくりに取組んでおられます。事業所に来訪されるうどん教室、囲碁などのボランティアや、法人デイサービスに来訪されるフラダンス、日本舞踊などのボランティアとの交流、実習に訪れた大学生から招待されたお茶会と学内での花見など、利用者が地域の人とつながりながら楽しい時間を過ごせるよう支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に添った介護を目指し、必要性和自覚を促すことで、日々の向上を図るために、朝の申し送りやスタッフ会議での理念の共有を再確認し取り組んでいる。	「ここで出逢えたあなたのために、地域の方々、利用者、一緒に働く仲間たちへ、私たちは今日の幸せを明日につなぐ」という法人理念を事業所理念として、事業所内に掲示し、月1回のスタッフ会議で唱和して共有し、利用者が地域とつながりを持てるよう努めているなど、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方による、ちぎり絵教室、囲碁を開催し交流を深めている。地域の夏祭りの催しに協力しカレー作りの手伝いを行い、利用者も夏祭りへ参加し交流を深めた。地域との繋がりが継続されるように努めている。	法人として自治会に加入し、自治会の集会開催時には場所を提供している。職員は地域の清掃活動や資源回収に参加している他、地域の夏まつりのカレーづくりに協力している。利用者は夏祭りや敬老会に参加して、地域の人と交流している。ボランティア(ちぎり絵、うどん教室、囲碁など)の来訪がある他、デイサービスに来訪するボランティア(フラダンス、日本舞踊、ギター演奏、周南しゃきり体操、民謡など)とも交流している。大学生の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃作業や資源回収に積極的に参加し貢献できた。地域自治会有志の方々による施設見学で認知症の理解を深めた。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	初めての評価なので、将来は具体的な改善に対し、積極的に取り組んでいる。なお自己評価は、職員全員が書類に記入し理解に取り組んだ。	管理者はスタッフ会議でガイド集に基づいて評価の意義について説明し、全職員に評価のための書類を配布し、職員に記入してもらい、まとめている。全職員が評価の意義について理解しているとはいえない。	・評価の意義の理解と活用

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治体、地域の代表、市職員、地域包支援センターの方々と、意見交換を行いサービス向上に努めている。特に地域との関わりについては生の声が聞こえ役立っている。	法人他事業所と合同で2ヶ月に1回開催している。自治会連合会長、自治会長、民生委員、利用者、家族、市担当者、地域包括支援センター職員をメンバーとし、利用者の状況報告、行事報告、研修・委員会活動報告、インシデント・事故報告を行い、情報交換や意見交換をしている。地域の夏まつりや行事について情報を得て、自治会への加入につなげたり、避難訓練への地域の人の参加につなげているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初めに空き部屋情報の報告や、利用者の生活状況等について話し合いを行い、サービスの向上に生かしている。	市担当者とは運営推進会議時の他、更新申請などで出向いたり、電話やメールで相談や情報交換をして協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時に情報交換するなど連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全第一で、常に利用者へ見守りや声掛けでケアに取り組んでいる。やむを得ない場合、センサーマットコール、2本柵で安全を図っている。玄関の施錠については、入居者の安全確保、防犯上、18:00以降翌朝8:00までは玄関の施錠をしている。	外部研修で身体拘束について学び、スタッフ会議で内部研修として復命報告をして、職員は理解に努めている。スピーチロックについて気になるところは管理者が指導し、スタッフ会議で言葉かけについて話し合っている。昼間は施錠せず見守りや声かけを行っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への寄り添いに努め、傾聴し、職員会議、研修に参加し全員虐待防止に向け、常に注意をはらっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ、成年後見制度を利用している方はいないが、将来において活用できるよう支援する。外部講師による研修を実施するよう予定しており、理解を深め活用したい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族と話し合いの時間を持ち、パンフレット、資料等で納得して頂けるまで説明をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置して、受け付け体制を整えている。また、重要事項説明書にもその他の相談機関を紹介している。苦情に対しては円滑な運営に繋がるように真摯に受け止め対応している。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時には管理者やリーダーが声かけをして意見や要望を聞いている他、運営推進会議時や電話でも意見を聞いているが、意見は少ない。外出の機会を増やしてほしいという要望があり、移動パン屋のパンを買いに行くなど、少しでも外出する機会をつくるように取り組んでいる。	・利用者や家族が意見や要望を言い表せる機会の工夫
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議で、情報の共有、意見の提案の集約に努め改善している。	管理者やリーダーは、月1回のスタッフ会議や朝の申し送り、月1回の各委員会等で職員の意見や提案を聞いている他、日常の業務の中でも聞いている。脱衣所の棚の設置やカラオケ機器の購入、勤務時間の変更など、職員の意見や提案を、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス規定を整備しており、職務と職責を確立し、仕事の業績を適正に評価し、その結果を人事、任用、給与に反映させている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、法人合同による委員会活動に参加している。外部研修へは実践者研修、虐待防止などの研修に参加している。	外部研修は管理者研修、実践者研修、リーダーフォローアップ研修、新任者研修など、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。法人研修は開設時に1ヶ月間接遇、認知症、介護技術、緊急時対応、看取り、服薬、感染予防などについて実施している。内部研修は月1回、スタッフ会議と併せて実施し、年間計画を作成して認知症の理解、緊急時の対応、食中毒などについて学び、外部研修の復伝を行って、職員間で情報を共有している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者との交流等、これから近隣の事業者と共同での勉強会やネットワークづくりはまだ、十分に行われていないが、今後の課題として取り組んでいき、質の向上に努める。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込時、入居に際し本人の意思を聞き取る と同時に適切なサービスが提供できるように 情報収集を行い、ケアに取り入れ利用者の 話しやすい環境づくりや関係性に気を付け ている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	申込時、本人、家族の話を聞くことで、不安 や要望に耳を傾け、問題解決向け取り組ん でいる。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要な支援を見極め、本人、家族 の要望、意向に沿えるよう柔軟な対応に努 めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活で、出来ることはやって頂き、体 験、助言等で共に生活の共有に努めてい る。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	情報交換を行い、利用者の状況を伝え、家 族との絆を深め、本人の自立に向けて共に 考えて支えあう関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や地域で、馴染みの人との交流が途切 れないよう、定期的に地域との交流に努めて いる。(ちぎり絵教室、うどん教室等)	家族や親戚の人、知人の来訪がある他、電話 や手紙などでの交流を支援している。馴染み の人との交流の場として地元の夏まつりに参 加している。家族の協力を得て子供のころに 育った地へ旅行したり、自宅への一時帰宅、 外泊、墓参り、法事への参加、馴染みの美容 院の利用など、馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	お互いのコミュニケーションがうまくいくよう な関わりを深め、支えあうよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合はお見舞いへ行き、退去された方へも自宅訪問し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中や、家族との会話の中から、思いや意向を把握したり、介護していくうえで、気付いた事等をミーティング、カンファレンスで発言したり、本人の言葉を介護記録に残したりしている。	入居時のアセスメントで本人の生活歴や生活環境、思いや要望などを聞き、フェイスシートに記録している他、日頃の会話や職員の気づきを居宅介護支援記録に記録して思いの把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得て、月1回のカンファレンスで本人本位に検討している。思いや意向の把握が十分とは言えない。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、環境等について家族から聞き取った情報からアセスメントし、ケアに反映している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活ぶりは、介護記録に記入をおこない気付いた事は連絡ノートや個人記録で申し送りをしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は6か月毎に見直している。アセスメントに沿って家族の思い、本人の言葉を聞き、本人らしい生活が出来るよう介護計画を立てている。	計画作成担当者と利用者を担当する職員が中心となって月1回カンファレンスを行い、本人や家族の思いや意向を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、6ヶ月毎に計画の見直しをしている他、本人の状態の変化や要望に応じてその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	・モニタリングの工夫
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身状況、言動等変化が有った事、発した言葉を記録し情報の共有ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調に合わせ、受診や歯科往診、訪問理美容等、柔軟な支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア(ちぎり絵教室、囲碁等)生活に豊かさと潤いを感じてもらえるようにしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を家族の協力を得て支援し生活を提供できるようにしている。	本人や家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回の訪問診療がある他、週2回の訪問看護、週2回の法人看護師によるバイタルチェックと利用者や職員の相談に応じている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は居宅介護支援経過記録や個別記録に記録し、職員間で共有すると共に、家族に電話で報告している。緊急時には協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH内の看護師や医療法人の看護師とも相談しやすい関係性が構築されており、すぐに対応ができる体制を整えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、病院関係者との情報収集や相談を行い、退院時には情報を頂き、病院関係者との関係づくりを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、説明書類を渡し説明を行い同意をとっている。	契約時に「重度化対応、終末期ケア対応指針」に基づいて、事業所のできる対応について家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は早い段階から、医療機関や他施設への移設や看取りについて家族や主治医、看護師、職員が話し合い、方針を共有して取り組むこととしている。年1回看取りケアの研修を実施している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生した場合は、速やかに報告書に記して改善策の検討を行う。一人一人の日々の状態を把握し、予測される危険を検討し事故防止に取り組んでいる。	事例が生じた場合は、その日の職員で再発防止策を検討してインシデント、事故報告書に記録し、回覧して共有に努めている。開設時の研修で救命救急法を受講している他、誤嚥、感染症、緊急時の対応について学び、内部研修で転倒予防について学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、9月25日に予定しており、地域の住民に協力を仰ぎ実施予定である。今後は昼夜の避難訓練の実施に努め、地域との協力体制を強化していく。	消防署の協力を得て法人合同で昼間を想定した消火、避難、通報訓練を、地域住民15人が参加して実施している。地域の8人が利用者の役として避難誘導訓練に参加し、体験した状況などを運営推進会議で話し合い、協力体制について検討している。法人は市と災害時の福祉避難所としての協定を結んでおり、緊急時連絡網に地域の人も入るなど、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ケアの理解を促すとともにコミュニケーションをとる際の指導をおこなっている。人生の先輩としての尊敬の念を持ち、やさしく思いやりの心でケアの実践を心掛けている。	開設時に接遇研修で学んでいる他、スタッフ会議で話し合って、全職員が人格の尊重とプライバシーの確保について理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる対応があれば管理者やリーダーが指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者への言葉掛けは、本人の意思を尊重して傾聴の姿勢で臨むよう工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、自分のペースで過ごせるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者おひとりおひとりのそのひとらしさとは何かを考え、身だしなみについても継続できるように支援する。月に1度訪問理美容にて散髪を実施している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	バランスの良い食事提供をし、希望のメニューを取り入れ、ゆっくり食事を楽しんでいる。	三食とも配食を利用し、ご飯や汁物は事業所で調理している。年1回利用者の嗜好調査を行い献立に反映させている他、一人ひとりに合わせた形状で提供している。利用者は台拭き、トレー拭き、おしぼり巻、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。季節の行事食（おせち、そうめん流し、敬老祝い膳など）や3～4ヶ月に1回の昼食づくり（巻寿司など）、月1回のおやつづくり（甘納豆パン、水ようかん、チーズケーキ、コーヒー豆乳プリン、お好み焼きなど）、移動パン屋の利用、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものになるよう工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの体調や習慣に合わせ提供できるようにしている。嚥下困難の方は、食事形態の調整を行っている。1日の全体量もチェック表に記入し把握している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員全員が理解しており、食後必ず口腔ケアを実施し、利用者に応じて見守り介助を行う。就寝時は、義歯を薬液で消毒し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、一人一人の排泄パターンを把握している。適切な時に、介助や声掛けが出来る様努めている。	排泄チェック表を活用して一人ひとりのパターンを把握し、言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を排泄チェック表に色分けで記録を行い、便秘の重要性を理解し把握しやすいように努めている。細かい水分摂取の記入に努め1日の合計摂取量を把握している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思を尊重し、時間帯や体調に合わせて、清拭・足浴等も対応している。入浴中はコミュニケーションを図りながら、個々に応じた支援に努めている。	入浴は10時から11時30分までの間と14時30分から16時までの間可能で、週3回、ゆっくり入浴できるよう支援している。利用者の体調に合わせて清拭や足浴の支援をしている他、法人事業所の機械浴の利用や入浴剤を入れたり、一人で長湯を楽しむなど、一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。入浴したくない人には日時を変更するなど、工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜TVを見て過ごされる方や昼寝をされる方へ居室の温度、寝具等に配慮し、居室で安心して過ごしていただくよう、個々の生活習慣を尊重した支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別の服薬ファイルがあり、効果や副作用等職員がいつでも閲覧出来る様にしている。服薬箱を工夫し行い、飲み忘れ防止を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティア慰問への参加にて、好きな歌や踊り等楽しみを持つことができる。移動パン屋さんが来て、買い物をする楽しみや気分転換を図っている。	季節の行事(バレンタイン、節分、七夕飾りなど)、誕生日会、ボランティア(フラダンス、日本舞踊、琴やギター演奏、囲碁、しゃきり体操、民謡など)との交流、うどん教室、カラオケ大会、童謡の合唱、習字、ちぎり絵、折り紙、ぬり絵、パズル、脳トレ、輪投げ、おやつづくり、昼食づくり、テレビの視聴(のど自慢、相撲、時代劇など)、掃除、モップかけ、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、手すり拭き、食器洗い、台拭き、トレー拭き、おしぼり巻、雑巾縫い、ボタン付け、編み物など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園まで、体調の良い方を順次誘い気分転換に努めている。また、地域行事の夏祭りに参加し、かき氷を食べたり、催し物の見学等で大変喜ばれた。家族の方からは定期的に、受診・美容院・外食等に連れて出られ協力して頂いている。	初詣、花見(梅、桜)、地域の夏祭り、大学でのお茶会、移動パン屋での買物、夕涼み、近隣の公園への散歩、家族の協力を得ての一時帰宅、外泊、法事への参加、旅行など、戸外へ出かけられるよう支援しているが、外出の機会が多いとはいえない。	・外出の機会を増やす工夫
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かっており、本人、家族へ同意の上、ちぎり絵教室の材料代、理美容代、日用品等必要な時に使うよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な時に家族と電話で話したり、連絡の取次ぎ等の支援をしている。本人が自ら年賀状を書いて出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不要なものは出来るだけ置かず、季節の花を飾っている。定期的に部屋の温度を記録し、空調管理を実施している。食事時はリラクゼーションCDを流している。	リビングは明るく、観葉植物や花鉢を飾り、テレビやソファ、廊下には椅子を置き、利用者一人ひとりが思い思いに寛ぐことができる。対面式のキッチンからはご飯を炊く匂いがして、食後は職員と一緒に食器を洗ったり、食卓でおしゃべりやぬり絵を楽しんでいる。温度、湿度、換気に配慮して利用者が、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに肩を並べて座り会話やTV鑑賞したりと、親近感を持っていただいている。居室にTV設置され、好きな時にTV視聴され思い思いに過ごすことができる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に好きな花や家族写真を飾ったり、自宅で使用していた馴染みの家具を置かれ気持ち安定され穏やかに過ごされている。	箆笥、鏡台、テレビ、衣装ケース、化粧品などの家具や日用品などを持ち込み、人形やぬいぐるみ、家族の写真、花などを飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で、その方に出来ること(洗濯干し、たたみ、取り込み等)を職員と共に安全に行い習慣としている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームさるびあ

作成日：平成 28 年 4 月 10 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11・24	苦情箱を設置し受付体制を整えているが利用者や家族からの意見や要望が乏しく、言い表せる機会の工夫が必要である。	利用者やご家族のニーズを把握することで、より良いサービス提供に繋げる。	・利用者・ご家族の思いを把握する機会を増やせるようニュースレターにご意見、ご要望をお聞かせいただきたい旨を掲載し啓発する。 ・利用者には、担当職員が定期的に意向を伺う機会を作り、小さな事柄でも記録に残し、カンファレンスの際に検討する。 ・苦情受付担当者を各ユニット毎に配置することにより、きめ細かく、迅速に対応できるよう体制を整える。	12ヶ月
2	27	全職員が、利用者一人ひとりのニーズと日常生活の記録を共有する方法と、モニタリングの評価を反映させた、より具体的な計画書の作成が必要である。	実施状況の評価を基に、利用者の状態の変化や要望に応じて介護計画に反映させる。	・介護計画に設定するサービス内容における実施状況を、ケア目標に照らして日々チェックすることで、介護計画に基づく実践とその結果を客観的に評価できるようにする。 ・日々の評価を基に、本人の状態の変化や要望に応じ、現状に即した介護計画の作成を行う。	12ヶ月
3	35	全職員が、利用者の状況の把握を行い応急手当や初期対応の実践力を身につける必要がある。	全職員が利用者の状況の把握を行い、内部研修や外部研修を通して応急手当や初期対応の実践力を身につけることで、事故防止に努める。	・看護職員を講師とする内部研修や消防署の協力を得て行う外部研修を定期的実施することで、応急処置や緊急時の初期対応について、全職員が実践力を高める。	12ヶ月
4	4	活動目標を早い段階で定め、全職員が評価の意義を理解し活用することで、具体的な目標に取り組む必要がある。	全職員が評価の意義の理解を深め、具体的な活動目標に取り組む。	・外部評価の理解を深めるために、スタッフ会議等で説明を行い、一人一人が把握できるように努める。 ・今回設定した目標達成計画を、全職員で一つずつ検討しながら取り組むことで、外部評価の意義と活用の仕方について学ぶ機会としたい。	6ヶ月
5	50	家庭の位置づけとして、利用者一人ひとりの希望に沿って柔軟に支援することで、日常生活の中で外出の機会を増やす必要がある。	行事としての外出だけではなく個別の希望に応じて外出ができる機会を作る。	・外出等、利用者に日々の会話の中で要望を聞き取り個別対応として外出や買い物を支援する。 ・地域行事に積極的に参加し交流を深める。 ・天気の良い日は、近所を散歩する事で運動不足を解消する。	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。